

第 32 回 日本小児 PD・HD 研究会

プログラム・抄録集

会期：平成 30 年 10 月 4 日（木）・5 日（金）

会場：広島県医師会館

当番世話人：県立広島病院小児腎臓科 大田 敏之

ご挨拶

第 32 回日本小児 PD・HD 研究会を開催させていただくことになり、大変光栄に存じます。32 回の長きにわたる本研究会の歴史の中で、当地広島で開催するのは私の恩師である坂野堯先生が 2 度お世話させていただいて以来、3 回目になります。本会が皆様の診療のお役に立てれば幸いです。

本研究会レジストリーの未発表データによりますと、1990 年をピークに本邦の小児 PD 年次導入患者数は漸減しているようです。これは主に先行的腎移植が増加した影響であり、2012 年には 30 余名の導入であったそうです。一方、日本小児腎臓学会統計調査委員会の報告によりますと、腎代替療法としての PD 選択率は、4 歳以下、5～9 歳、10～14 歳、15～19 歳の年齢層別では、おのおの 87.9%、58.6%、55.2%、37.2%でした。PD 導入数は最盛期より減ったようですが、低年齢化していることが伺われますし、以前よりも困難な症例が増えたように思います。そこで今回は、本研究会の初心に戻って、「困難症例にいかにつなげていくか」をメインテーマといたしました。

各施設で苦労されているであろう新生児型常染色体劣性多発性嚢胞腎に対する、PD を中心とした腎代替療法を題材に選び、本邦でいかなる治療が行われているかを示し、今後同様の症例を経験される施設のご参考になればとワークショップを企画いたしました。また、特集演題として「導入・維持が困難な症例」を募集し、会場全体で議論する機会を設けました。このような患児の透析には看護師さんの管理・指導が特に重要です。本邦の小児腎代替療法で中心的な立場にある施設での工夫を伺うことにより、患児の透析がスムーズに行われ、腎移植に安全に橋渡しできるようにとの思いで、「スペシャリストに聞く！小児透析看護・指導のコツ」をシンポジウムに採り上げさせていただきました。また、PD を行う上で特に留意しなければならない被嚢性腹膜硬化症に対する治療の第一人者でいらっしゃいます、土谷総合病院：川西秀樹先生に教育講演を賜ります。一般演題として臨床研究、症例報告と非常に興味深い演題も数多くいただきました。ご発表の先生方、ご指導の先生方に改めてお礼申し上げます。

今回異例のものとして二つ特別演題を企画いたしました。一つは、昨年度より本研究会会長にご就任なさいました幡谷浩史先生による小児透析のオーバービューです。本研究会の進むべき方向性を示していただけるものと期待しております。二つ目は、私が日常行っております「タブレット型端末を利用した情報整理と提示」に関する実演です。実演にはハプニングが付き物であり、今から緊張しております。

最後に本研究会の開催にあたりまして、多くのご協力をいただきました事務局：東京都立小児総合医療センターの皆様、ご協賛いただきました各企業の方々に深く感謝申し上げます。

第 32 回日本小児 PD・HD 研究会

当番世話人 県立広島病院小児腎臓科 大田 敏之

ご案内—参加者の皆様へ—

1. 会場 広島県医師会館
〒732-0057 広島市東区二葉の里 3-2-3 ☎ 082-568-1511
2. 会期 2018年10月4日(木)・5日(金)
3. 登録 当日、会場受付で登録の上、所定のネームタグをつけてご入場ください。登録の際、参加費をお支払いください。本年度年会費未納の方は年会費のお支払いもお願いいたします。新入会の方は入会登録を合わせてお願いいたします。

○参加費

医師・企業 4,000円
看護師・コメディカル 2,000円
学生・初期研修医 無料
会場内では必ず参加証をご着用ください。

○プログラム・抄録集は会場でも無料で配布いたしますが、部数に制限がございます。事前に郵送させていただいた方はお持ちください。

○会場内は飲食禁止ですので、お気を付けください。

○クローク

日時：10月4日(木) 11:30-18:30
10月5日(金) 8:45-12:45
場所：4F 401会議室

○単位認定

本研究会は、日本小児科学会(新制度1単位)、日本腎臓学会(1単位)、日本透析医学会(3単位)の単位の認定を受けています。

なお、日本小児科学会の単位はワークショップ出席者に対して付与されますので、ご注意ください。

また、日本透析医学会の単位は、手続きが必要のため研究会当日に受付にお申し出ください。

4. 世話人会 2018年10月4日(木) 11:30~12:30
広島県医師会館 401会議室(食事可能です)

5. 問い合わせ 第32回日本小児PD・HD研究会 当番世話人 大田 敏之
〒734-8530 広島市南区宇品神田 1-5-54
県立広島病院小児腎臓科
☎082-254-1818 FAX 082-253-8274
E-mail t-ohta@hph.pref.hiroshima.jp
6. 懇親会 2018年10月4日(木)本研究会終了後、開催いたします。
19:00より開始を予定しております。
場所：広島アンデルセン(広島市中区紙屋町2-2-2 ☎082-247-2403)
会費：5,000円を予定。

プログラム

10月4日

開会あいさつ(12:30~12:35) 当番世話人 大田 敏之(県立広島病院 小児腎臓科)
来賓あいさつ(12:35~12:40) 坂野 堯(さかの小児科)

12:40-13:30 特集演題(困難な透析) 座長: 静岡こども病院腎臓科 北山浩嗣
九州大学大学院成長発達医学 西山慶

1-1 巨大膀胱による排液不良にてCCPDが困難となりCAPD管理となった1例

○富井祐治、梅田千里、西野智彦、渡邊佳孝、櫻谷浩志、藤永周一郎
埼玉小児医療センター 腎臓科

1-2 腹膜透析導入後5年が経過し、今後の腎代替療法選択に苦慮している Eisenmenger
症候群を合併した Down 症候群

○西見早映子、菅原啓司、小野寺千夏、古川ひろみ、石川 健、高橋 信、小山耕太郎
岩手医科大学小児科学講座

1-3 造血細胞移植後の末期腎不全に対し腹膜透析を導入した小児例

○黒川麻里、西山慶、大場詩子、古賀友紀、大賀正一
九州大学大学院 成長発達医学

1-4 血液透析を導入した腹腔内悪性軟部腫瘍の小児例

○松田百代¹⁾、久富隆太郎¹⁾、山崎夏維²⁾、山本与毅³⁾、石井啓一³⁾、藤丸季可¹⁾

1) 大阪市立総合医療センター 小児総合診療科

2) 同 小児血液腫瘍科 3) 同 小児泌尿器科

1-5 腹膜透析中に反復する腹腔内膿瘍を認め CT ガイド下穿刺ドレナージを施行した女児
例

○ 藤井寛¹⁾、大田敏之¹⁾、小野泰輔²⁾、野間康輔²⁾、小野浩明²⁾、神野和彦²⁾

1) 県立広島病院小児腎臓科 2) 同 小児科

13:35-15:05 シンポジウム スペシャリストに聞く！小児透析看護・指導のコツ

座長 横浜市立大学附属病院小児科 伊藤秀一

東京都立小児総合医療センター 阿部育子

S-1 母子の愛着形成に着目した乳児期にあるPD患者の看護

○西田幹子¹⁾²⁾、西田みゆき¹⁾、佐藤舞²⁾、小椋雅夫²⁾、亀井宏一²⁾、石倉健司²⁾

1) 順天堂大学大学院医療看護学研究科

2) 国立成育医療研究センター 腎臓・リウマチ・膠原病科

S-2 今日来るかも、大規模災害!!

～あなたのPD患者さん、備えはできていますか？～

○浅田 佳代子

あいち小児保健医療総合センター

S-3 学童期以上のPD指導と移行期支援

○渡邊 晶子、阿部 育子、濱田 陸、幡谷 浩史、佐多 裕子

東京都立小児総合医療センター

15:05-15:35 総会

15:35-15:50 ティーブレイク

15:50-16:20 一般演題（看護演題） 座長 順天堂大学大学院医療看護学研究科

西田 幹子

2-1 腹膜透析導入となった思春期の患者と家族への支援

○栗林 佑季

兵庫県立こども病院 看護部 外来

2-2 小児腹膜透析導入時の指導についての養育者へのインタビュー調査

○岡田彩里沙、池田さつき、石橋鼓、古藤雄大

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 看護部

2-3 子ども達にも知っておいてもらいたい災害時の対応～腹膜透析児用災害時手帳の作成～

○竹部彩樺¹⁾、福田知世¹⁾、澤田友佳子¹⁾、田中一樹²⁾、日比野聡²⁾、藤田直也²⁾

1) あいち小児保健医療総合センター 31 病棟 2) 同 腎臓科

16:20-17:00 一般演題（症例）座長 あいち小児保健医療総合センター腎臓科

藤田 直也

東京都立小児総合医療センター腎臓内科

濱田 陸

3-1 多発動脈血栓症により両側膝上大腿切断に至るも救命しえた初発ネフローゼ症候群の 10 歳女児例

○富樫勇人、下里侑子、吉富誠弘、佐々木康二、竹内正宣、柴徳生、伊藤秀一

横浜市立大学附属病院小児科

3-2 回路内凝血を繰り返し PS 膜から VPS 膜への変更を要した ANCA 関連腎炎の 13 歳女児

○西野 智彦、梅田 千里、富井 祐治、渡邊 佳孝、櫻谷 浩志、藤永 周一郎

埼玉県立小児医療センター 腎臓科

3-3 長期腹膜透析中に *Mycobacterium fortuitum* による出口部感染を発症した 18 歳女性

○渡邊佳孝、梅田千里、西野智彦、富井祐治、櫻谷浩志、藤永周一郎

埼玉県立小児医療センター腎臓科

3-4 両腎摘出後に腹膜透析管理となった ARPKD 女児の 1 例

○中野慎也¹⁾、山村なつみ¹⁾、道上敏美¹⁾、田畑奈都子²⁾、和田和子²⁾、松井太³⁾、松本富美³⁾、山本勝輔¹⁾

1) 大阪母子医療センター 腎・代謝科 2) 同 新生児科 3) 同 泌尿器科

17:00-18:00 教育講演 座長 東京都立小児総合医療センター 本田雅敬

被嚢性腹膜硬化症（EPS）治療、24年間の経験

土谷総合病院 川西秀樹

19:00-21:00 懇親会：ワインと音楽のタペ アンデルセンにて

10月5日

9:00-9:30 新研究会会長講演 座長：県立広島病院小児腎臓科 大田敏之
（演題名）

東京都立小児総合医療センター総合診療科・腎臓内科 幡谷浩史

9:30-10:00

当番世話人講演 座長：東京都立小児総合医療センター総合診療科・腎臓内科
幡谷浩史

タブレット型端末を利用した情報整理術—学会の歩き方、診療の方法—

大田 敏之

10:00-11:30 ワークショップ

座長 国立成育医療研究センター 膠原病・腎臓内科 亀井宏一先生

小児科専門医研修集会（新制度）承認番号：1806-B-078

W-1 二回の片腎摘を行った常染色体劣性多発性嚢胞腎の一例

○白石泰尚¹⁾²⁾⁵⁾，大田敏之¹⁾，藤井寛¹⁾，野間康輔²⁾，小野泰輔²⁾，小野浩明²⁾，神野和彦²⁾，赤峰翔³⁾，亀井尚美³⁾，大津一弘³⁾，多田昌弘⁴⁾

1) 県立広島病院小児腎臓科 2) 同 小児科 3) 同 小児外科 4) 同 救急救命科

5) 市立三次中央病院小児科

W-2 新生児型常染色体劣性多発性嚢胞腎に対する腹膜透析導入経験から

○長岡 由修

札幌医科大学医学部 小児科学講座

W-3 常染色体劣性多発性嚢胞腎の長期予後～肝移植と腎移植の戦略～

○佐藤舞¹⁾、亀井宏一¹⁾、石倉健司¹⁾、笠原群生²⁾

1) 国立成育医療研究センター 腎臓・リウマチ・膠原病科

2) 同臓器移植センター

W-4 常染色体劣性多発性嚢胞腎についての診療アンケート調査

○郭義胤

福岡市立こども病院腎疾患科

W-5 ARPKD の治療方針～外科医の立場から～

○佐藤裕之

東京都立小児総合医療センター 泌尿器科・臓器移植科

11:30-12:30 一般演題（臨床研究） 座長 埼玉県立小児医療センター腎臓科

藤永周一郎

大阪市立総合医療センター小児総合診療科

藤丸李可

4-1 新生児期に腎機能障害を呈する先天性腎尿路異常においてクレアチニン値は腎機能予後予測に有用か

○西 健太郎¹⁾、小椋 雅夫¹⁾、金森 透¹⁾、石和 翔¹⁾、奥津 美夏¹⁾

佐藤 舞¹⁾、佐古 まゆみ¹⁾、諫山 哲哉²⁾、亀井 宏一¹⁾、伊藤秀一³⁾

伊藤 裕司²⁾ 石倉 健司¹⁾

1) 国立成育医療研究センター 腎臓リウマチ膠原病科 2) 同 新生児科

3) 横浜市立大学大学院 医学研究科発生成育小児医療学

4-2 当科における起因菌の判明した PD カテーテル関連出口部感染症の検討

○宮野 洋希^{1,2)}、西野 智彦¹⁾、梅田 千里¹⁾、富井 祐治¹⁾、渡邊 佳孝¹⁾、櫻谷 浩志¹⁾、

藤永 周一郎¹⁾

1) 埼玉県立小児医療センター 腎臓科

2) 神栖済生会病院 小児科

4-3 カテーテル関連感染予防に対するクロルヘキシジンの有用性

○西村竜哉、北形綾一、加賀田敬郎、内田博之、田中一樹、日比野聡、藤田直也
あいち小児保健医療総合センター 腎臓科

4-4 当院における腹膜透析患者の鼠径ヘルニア合併症例の検討

○出来沙織¹⁾、菊永佳織¹⁾、赤峰敬治¹⁾、神垣佑¹⁾、白根正一郎¹⁾、泊弘殿¹⁾、南裕佳¹⁾、井口智洋¹⁾、三上直朗¹⁾、寺野千香子¹⁾、原田涼子¹⁾、濱田陸¹⁾、幡谷浩史¹⁾、本田雅敬¹⁾、下島直樹²⁾、佐藤裕之³⁾

1) 東京都立小児総合医療センター 腎臓内科 2) 同 外科 3) 同 泌尿器科

4-5 小児腹膜透析患者における 24 時間自由行動下血圧測定 (ABPM) の検討

○田中一樹、北形綾一、西村竜也、加賀田敬郎、内田博之、日比野聡、藤田直也
あいち小児保健医療総合センター腎臓科

4-6 小児腹膜透析 32 症例の高血圧に対する降圧剤の臨床的検討

—ACEI の初期投与量と最高投与量—

○北山浩嗣、山田昌由、深山雄大、田崎優子、佐藤雅之
静岡こども病院腎臓内科

12:30～ 閉会挨拶＝次年度当番世話人挨拶